（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

玉名高等学校（定時制）令和５年度（２０２３年度）学校評価計画表

１ 学校教育目標

（１）教育スローガン　「健康・礼儀・努力」～何事にも一生懸命頑張る玉高生～

ア　「健康」：健やかな体、豊かな心（読書）、確かな学力

イ　「礼儀」：礼に始まって礼に終わる（校門一礼）、挨拶、時間厳守、掃除、感謝

ウ　「努力」：努力に勝る天才はなし　目標達成、感動、笑顔

（２）玉名高校生に身につけさせたい「９つの資質・能力」

校訓 ＼ 資質・能力	至誠（誠実さ）	剛健（たくましさ）	進取（先進性）
知識・技能	①　肯定力	②　挑戦力	③　探究力
思考力・判断力・表現力等	④　想像力	⑤　持続力	⑥　協働力
学びに向かう力、人間性等	⑦　貢献力	⑧　突破力	⑨　創造力

２ 本年度の重点目標

今年度のテーマ　「夢実現・未来への挑戦」～マナーを身につける～

（１）健全な心身の育成

ア　教育環境を整備し、生徒の健康・安全教育を徹底する。

イ　体験学習・インターンシップ等を通じて、職業観･勤労観を育成する。

ウ　特別活動や総合的な探究の学習の充実により、豊かな情操と人権を尊重する心を育てるとともに生命を大切にする態度を育成する。

（２）学力の向上と進路指導の充実

ア　一人一人の学力や個性に応じた「わかる授業」を実践し、基礎学力を定着させる。
また、「玉定チャレンジ」等の個別指導を充実させ、自学できる生徒を育てる。

イ　授業時数確保と、出席率向上に努める。特に学校行事等への積極的な参加を促す。

ウ　キャリア教育や面談等を通して就業を促し、早くから将来の目標を設定させ、夢実現に向けて最後までやりきろうとする姿勢を身につけさせる。

（３）地域や保護者に信頼される学校づくり

ア　仲間意識を高めるとともに、自己有用感を高め、一人一人に自信と誇りを持たせる教育を実践する。

イ　愛情と情熱を基調とした職員・生徒間の信頼関係に立ち、生徒とともに成長する姿勢で日々の教育実践を行う。また、教育者としての使命と責務を自覚し、教員同士が教え会うことで力量を高めていく。

ウ　地域の特性を理解し、中学校との連携や地域の資源を活用した教育実践を進める。

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	安心・安全な学校づくり推進	施設の安全確保と緊急時の安全確保	安全点検による確認と危機管理マニュアルによる安全意識の向上に取り組む。	①年間２回、安全点検表で確認し、危険箇所をすぐに改善する。 ②救急救命講習や防災訓練等を実施し、緊急時対応を確認する。	B	【成果】 危険箇所の速やかな改善と緊急時や夜間停電時の対応を確認できた。 【課題】 危機管理マニュアルは訓練時だけ確認している。
	業務改善・働き方改革	生徒と向き合う時間の確保のための工夫	校務の精選とＩＣＴを活用して業務の効率化を図り、校務の平準化を図るなど負担を軽減する。	①衛生委員会において勤務状況や校務の負担状況を検証し、業務の改善を行う。 ②ＩＣＴ研修で職員のスキルアップを図る。	A	【成果】 校務分掌の見直しを行い、職員の負担軽減を図った。またＩＣＴ研修により授業改善につながった。 【課題】 専門性が求められる業務は、限られた職員しか対応できていない。
学力向上	授業の充実	公開・研究授業の実施と授業評価の充実	「わかる授業」と「主体的・対話的で深い学び」の実	①公開授業や研究授業を積極的に行い、助言や意見交換を通じ、自	A	【成果】 公開・研究授業を設けることが授業

			現のために授業改革に努めるとともに、授業評価を充実させ授業改善を進める。	己研鑽に努める。 ②生徒アンケートや職員の意見交換をふまえて、授業や年間計画の検証・分析を深める。		改善に繋がった。 【課題】 授業評価アンケートの結果を踏まえた授業改善を、いかに次年度に繋げられるか。
	個に応じた学習指導	きめ細かな指導の充実	生徒の進路目標や授業における生徒の到達度を把握するなど生徒の個に応じた指導方法の工夫・改善に取り組む。	教科担当者が学期ごとに指導状況を見直し、生徒各自の目標達成に向けて工夫する。	A	【成果】 ＩＣＴ機器を活用した工夫・改善に努めた結果、個別指導が充実した。 【課題】 生徒理解研修を通して、生徒の特性に応じた教授方法を工夫すること。
キャリア教育（進路指導）	進路意識の高揚	進路目標設定の取組	卒業予定者の100%の進路先決定を目指す。また、各種資格取得を促し、生徒に達成感を体感させるとともに自己肯定感の向上を目指す。	①各種ガイダンスへの積極的な参加を促す。また担任とともに面談を重ね、就業意識の向上を図る。 ②進路希望調査をもとに進学予定者と個別に面談し、玉定チャレンジへの参加を促す。検定試験情報を、担任を通して生徒へ伝え、受験を促す。	B	【成果】 玉定チャレンジに取り組んだ生徒が、大学の推薦入試を受験し合格した。また、ビジネス文書実務検定試験に５名チャレンジし、４名が合格した。 【課題】 合同企業説明会に参加した生徒の就業意識は向上したが、自分の適性が分からず前に進めない生徒が存在する。
		キャリア教育の推進	個別面談等を通して就業を促し、生徒の就業率70%以上を目指す。また生徒がより広い視野で自分の進路を考え、具体的な希望を持ち、進路意欲が高まった状態を目指す。	①玉名公共職業安定所からのパート・アルバイトに関する情報を生徒に随時提供する。就業未経験者には特に個別面談を行い、インターンシップへの参加を促す。 ②職業講話やガイダンス（進学・就職）を実施したり、進路ニュースを発行（年間４回）したりすることで、生徒の意識向上を図る。	B	【成果】 職業講話と卒業生講話を実施し、就業意識の向上に繋がった。またインターンシップは担任の協力で４名の生徒が参加した。 【課題】 職業安定所の情報を提供して面談しているが、すぐに仕事をやめたり、面接試験で不合格になる生徒がいる。
生徒指導	心豊かな人格の育成	基本的生活習慣の育成と自主自律の精神の育成	丁寧な挨拶、時間の厳守、問題行動の防止に努める。喫煙等の問題行動や盗難事案の発生件数「０」を目標に取り組む。 生徒会執行部を中心として、各種行事の企画・運営を充実させる。	①全職員の共通理解と共通実践で取り組む。 ②生徒指導部と生徒会が企画し全職員・全生徒で取り組む。	C	【成果】 特別活動時の班別活動においては、自他を認め、人と豊かに関わろうとする態度の育成に繋がった。 【課題】 特別指導事案はなかったが、挨拶の励行や時間厳守ができていない。
	交通安全教育の徹底	交通安全意識の向上	交通安全教室を実施するなど、交通事故事案の発生件数「０」を目標に取り組む。	生徒指導部が企画・立案し、警察署と連携して実施する。	A	【成果】 交通安全教室や日頃の啓発により安全運転意識の向上につながった。

						【課題】 車やバイクの自損事故はゼロであったが、直進中のバイクと右折中の車の物損事故が１件発生した。（被害者）
人権教育の推進	推進体制の機能強化	職員研修の推進	全職員で研修に計画的に参加することで人権意識の向上と適切な対応能力を身につける。	人権・特別支援教育委員会が研修を立案し、全職員が参加する。	A	【成果】 職員研修や外部研修にすべての職員が参加した。 【課題】 人権教育に関する研修を継続して自己研鑽を深める。
	「命を大切にする心を育む」指導の充実	ホームルーム活動、教科指導における取り組みの推進	ホームルーム活動や各教科における取り組みを策定する。	人権・特別支援教育委員会で事前に計画し、事後改善をする。	A	【成果】 各学年に応じたＬＨＲを年３回実施することで、自身の行動を振り返ることができた。 【課題】 各教科の授業において「命を大切にする心を育む」を意識的に取り上げること。
いじめの防止等	いじめの未然防止と早期発見	いじめが起きないための日常的に取り組み、起きた時の適切な対処	生徒がお互いに思いやり、認めあえる人間関係を作りいじめを見逃さない体制を作る。また、いじめが起きた時はすぐに把握し、適切に対処する。	①ホームルームや生徒会活動等で仲間づくりを目的とした活動をする。 ②いじめの早期発見のため、アンケートを実施する。 ③いじめ・カウンセリング・生徒理解等に関する校内研修をする。	B	【成果】 年３回アンケートを実施しいじめ早期発見に努めた結果、本年度はゼロであった。 【課題】 「灯」の時間等で仲間づくりを意識したレクレーションを実施したが、輪に入れない生徒が存在する。
	家庭との連携強化	家庭への啓発の推進	人権教育講演会等で保護者・地域での啓発を図る。	人権教育講演会等を保護者に周知し、参加を促す。	C	【成果】 地域人材を活用して講演会を行ったことで、身近な差別に気づくことができた。 【課題】 保護者への周知が不十分だった。来年度は「すぐーる」を活用するなど改善を行う。
地域連携（ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙなど）	育友会との連携	育友会総会・学校行事での連携の充実	育友会総会や学校行事について、育友会と事前に話し合い、円滑な運営と連携をめざす。	①育友会だよりの作成において、広報委員会の活性化に協力する。 ②育友会総会、文化祭（若駒祭）、小岱山一周大会に協力する。	B	【成果】 文化祭や小岱山一周大会への保護者の協力により、充実した学校行事となった。 【課題】 育友会だよりやブログを通して情報発信は行ったが、活性化までには至らなかった。

	開かれた学校づくり	関係機関との連携	様々な教育活動の場面において、関係機関との連携が図れた状態をめざす。	①地元自治体（玉名市他）との連携を強化する。 ②上級学校（大学等）との連携を強化する。	B	【成果】 生徒に外部講師を招く教育機会を設けた。専門性が生かされた充実した内容となった。 【課題】 特性のある生徒を適切な外部機関に繋げ、困り感を解消すること。
特別支援教育	特別な支援を必要とする生徒への適切な対応	個々の生徒の正確な実態把握と支援	支援の必要な生徒に対して個別の支援計画・指導計画を作成して活用する。各種研修への参加や校内研修を推進する。	教頭、特別支援教育コーディネーターが中心となり、連絡会等を利用し、困り感を持つ生徒を全教職員で支援する。	B	【成果】 個別の支援計画・指導計画に基づく研修や外部講師による研修により、適切な生徒支援ができた。 【課題】 外部機関と連携してケース会議を開き生徒に寄り添う指導を行ったが、改善に至らないケースがあった。
保健環境教育	健全な心身の育成	生徒の健康診断の早期実施と早期受診指導	健康診断の全員の受診と治療率の向上。	①健康診断計画を早期に立案し、終了後の治療勧告を速やかに配付する。 ②保健便りの発行や生徒集会時の連絡で受診を促す。 ③健康意識を高めるために、外部講師を活用した講演会等を実施する。	B	【成果】 外部講師による食育、性教育等を実施したことで、生徒の意識が向上した。 【課題】 健康診断終了後１か月以内に治療勧告を配付し勧めたが、受診しない生徒が存在する。
	環境美化と環境教育の推進	環境美化の推進と学校版環境ＩＳＯへの取組	学校版環境ＩＳＯの目標設定や定期清掃を設けることにより環境美化の行動化を図る。	補食の牛乳パックのリサイクル継続、定期清掃での意識付けと行動化を図る。	B	【成果】 牛乳パックを利用した紙漉き体験を行い、リサイクルに対する意識付けができた。 【課題】 生徒の清掃に対する取り組み方に差がある。

４ 学校関係者評価

(1)夜間勉強する向上心は素晴らしいと思います。資格取得の為等、目的がある人がほとんどでしょうが、生徒の年齢も多様であり、教職員の生徒への対応は大変だと思います。アンケートの教職員の結果には、まさに苦労が表れているように感じました。
(2)アンケートの結果から教職員が生徒の基本的な生活習慣の確立させることと、組織的な生徒支援を実施することに対して改善・対策をしていただければと思います。
(3)全日制・定時制・附属中学校があるということは、他校にはない強みだと考える。この特長を生かした取り組みができるのではないかと助言いただいた。
(4)多様な生徒が学んでいる中で様々な取り組みをされ、成果をあげられています。定時制の取り組みを発信するなど協力したい。

５ 総合評価

【学校経営】
　校務分掌の見直しを行うことで、教職員の負担軽減を図り業務改善を行うことができた。また職員研修において授業で活用できるアプリの実習を行ったことが、授業力向上に寄与した。危機管理マニュアルの活用頻度を高め、緊急時のスムーズな対応に繋げる必要がある。

【学力向上】
公開・研究授業の実施とＩＣＴに関する職員研修を実施したことが、『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業改善に繋がった。各先生方が前後期２回の授業評価アンケートの結果を踏まえた改善と生徒の特性に応じた教授方法を工夫する必要がある。
【キャリア教育】
学力向上と資格取得を目的とした講座『玉定チャレンジ』を開講したが、上級学校への受験や資格取得への意欲的な取り組みに繋がった。また職業安定所と連携した取り組みや職業講話・卒業生講話の実施により、就業意識の向上と４名の生徒のインターンシップ参加に繋がった。就業率60％を超えており、６割の生徒は『働きながら学ぶ』ことを実践でている。
【生徒指導】
毎日の登校指導、健康観察、挨拶指導に努め、生徒に声をかけながら変化を見逃さない指導を心掛けた。また交通安全教室や日頃の啓発により安全運転意識の向上に繋がった。生徒は落ち着いた学校生活を送っており、特別な指導を要する事案は発生しなかった。
【人権教育の推進】
年間計画に従った職員研修や外部講師による研修を通して、人権意識と対応能力を高めることができた。また年３回の人権教育に関するホームルーム活動では、生徒の発達段階に応じた取り組みを行ったことで、生徒自身が自分の行動を振り返る機会となった。
【いじめ防止等】
全職員で生徒の情報共有を毎日行い、面談を行うなど個に応じた丁寧な対応を行った。年３回心のアンケートを実施したが、いじめ早期発見に努めたことで本年度は０件であった。地域人材を活用した人権講演会を行ったが、身近な差別に気づくことができた。
【地域連携】
学校行事終了後速やかに『定時制ブログ』を更新し生徒の様子を紹介するなど、情報発信を心掛けた。また、消防署と連携した救命救急講習会の実施、夜間停電時の避難訓練を全生徒に実施することで、緊急時の対応を確認することができた。
【特別支援教育】
個別の支援計画・指導計画に基づく研修や外部講師による研修により、特性のある生徒に適切な支援ができた。また毎日の職員連絡会で生徒状況を把握し共通理解を図ることで、困り感を持つ生徒を全職員で支援することができた。生徒の個別の事情に合わせてＳＣ・ＳＳＷ・医師・公共機関・外部機関と連携した取り組みを行うなど組織的な対応を行っている。
【保健環境指導】
外部講師による食育、性教育等を実施することで、生徒の健康に対する意識が向上した。また毎日の健康観察で担任と養護教諭が情報を共有し、適切な対応ができた。牛乳パックを利用した紙漉き体験を行い、リサイクルに対する意識付けができた。

６ 次年度への課題・改善方策

(1)基本的な生活習慣の育成と自主・自立の精神の育成
中学時代に不登校を経験した生徒や他校を退学した生徒、特性のある生徒など多様な生徒が在籍している。特別活動における班別活動の運営方法を工夫したことで、自他を認め、人と豊かに関わろうとする態度が育っている。しかし、時間や期限を守ること、きちんとした挨拶をすること、言葉遣い等に課題がある。よって、基本的な生活習慣についてホームルームでは担任・副担任、登校指導・捕食指導等においては全職員で、生徒の個々の特性に配慮しながら、個々の生徒が理解できるように丁寧な指導を行う。
(2)キャリア教育のさらなる充実
１年次生から就職・進学ガイダンスの実施やインターンシップ等の就労体験や玉定チャレンジ等への積極的な参加を促すなど、生徒の進路目標実現に向けた計画的な取り組みは実践できている。適性が分からず前に進めない生徒やすぐに就労先をやめる生徒、アルバイト先を受験しても面接で不合格になる生徒が存在する。職業安定所や地元の就労サポートセンター、Ａ型・Ｂ型の就労支援など、生徒の個の状況に応じて早い段階から連携し、卒業予定者の１００％の進路決定を実現する取り組みを強化する。
(3)配慮を必要とする生徒への対応
個別の支援計画・指導計画に基づいた生徒理解研修、スクールサポートを利用した職員研修等を通して特別支援教育に対する理解が深まった。外部機関や医師と連携してケース会議を開き対応したが、改善に至らないケースもあった。しかし、生徒と保護者をはじめ関係者で合意形成を図りながら、粘り強く対応している。今後も外部機関を活用しながら連携し、生徒に寄り添う指導を行っていく。
(4)保護者との連携
日頃から無断欠席や学校でのちょっとした変化や様子など、担任は保護者と電話連絡や家庭訪問をするなど連携し、丁寧な対応を心がけている。しかし、保護者会への出席やアンケートへの回答率は低く、課題を改善できなかった。学校ホームページの定時制ブログを活用した取り組み内容の発信、『すぐーる』を活用した連絡とアンケートの回収など、スマートフォンの便利さを活用してできるところから改善して連携を深める。